

## 和歌山病院での実習を終えて



岡本 知也

今回第3内科での実習として和歌山病院で2日間実習をさせて頂きましたが、県内唯一の結核病床を持つ病院として結核の臨床について見聞きし、また南方病院長からは呼吸器内科の基礎としての画像読影について基本から丁寧に教えていただくなど非常に有意義な実習をさせて頂きました。

これまでの学生生活の中で結核について感染様式や入院時の管理等知識としては学んできましたが、実際に病床を見学したり、先生方から一から再び教えていただいたことで、さらに結核に対する知識が深まり、考え方もどう扱えばいいか不安な病気から、しっかりとした知識を持てば、患者さんにも医療者にとっても感染の危険性を少なく出来るものだという意識を持つことが出来たように思います。

さらに今回の実習で今まで苦手としていた画像の読影について、基本から今回学んだ結核についてまで様々のことを教えて頂き、それまでの苦手意識が少し少なくなり、今後の臨床実習で自力で読影をしていこうという意識がでてくるきっかけになったと思います。教科書で学んでいた結核の特徴だけでなく、今実臨床でどのようなことに注意して画像を見ていかなければ行かないのか等、自分だけでは中々気づくことが出来ないような事を知ることが出来ました。

結核を始めとした、普段の学習では学びにくいことを中心に実習内容を作って頂いたので2日間新鮮な気持ちで学ぶことが出来たと思います。ここで学んだ内容をこれからの実習でも活かしていきたいと思っています。